



国民の森林・国有林

地域から信頼される国有林を目指す

小島新局長着任挨拶

4月3日、小島孝文新局長が局職員に着任挨拶を行いました。

この度4月1日付けで九州森林管理局局長を拝命しました小島孝文です。どうぞよろしくお願いたします。

私は1997年10月から2000年4月まで屋久島署に勤務しておりました。

今回、局長として再び九州局で勤務できる機会をいただき感謝の気持ちとともに感慨深いものがあります。

2000年4月に林野庁に戻ってから、2017年7月に東北森林管理局局長になるまでの約17年間は本庁で勤務し森林、林業、木材産業にかか

る川上から川下までの業務、林道や治山の設計基準・積算基準にかかる業務、また人材育成など幅広い仕事を担当させていただきました。そして九州にも福岡から沖繩まで度々出張する機会もありました。

その際、局の職員の皆さんや各県の林務の職員の方、また、関係業界の皆さんともいろいろお話をさせていただき、自分としても九州の森林・林業について勉強してきたつもりですが、九州本土で勤務することは初めてであり、まずは皆さんから最近の情勢につ

いてお話を聞きながら、九州の国有林が地域に根ざした存在として地域の皆さんから信頼され「国有林があつて良かった」というような組織になるように力を合わせて取り組んで行きたいと思っております。

今回は初めての機会でもありますが、私の仕事に対する考え方について3点述べさせていただきます。

まず一点目は、職員の皆さんは既に日頃実践さ



着任の挨拶を行う小島局長

れていることだと思いますが、私たち国有林の職員は、自分たちで行っている仕事の社会的意義だとか役割だとかを十分に自覚して仕事を進めていく必要があると考えています。

言うまでもなく、国有林は木材の安定供給、或いは観光資源としての国有林の活用などを通じて地域経済に大きな貢献をしています。また、国土の保全、水源涵養、素晴らしい自然環境の保全などの公益的機能の発揮を通じて「緑の社会資本」として地域及び国民の皆さんに重要なサービスを提供しており、職員はそのことをしっかりと自覚しながら仕事を進めていくということが大切です。その自覚があれば、コンプライアンスも遵守されていくと思えます。

二点目は、私たち国有林の仕事は、あくまでも国有林という現場で、その成果が発揮されるということです。私たちは公務員であり、林



着任の挨拶を受ける職員

野庁或いは局からの指示を各署に下ろし上意下達で仕事を進める部分もありますが、国有林の仕事は九州各地の現場で実行されます。そのため、署長或いは森林官が地域の実情を踏まえて規律を踏まえつつも柔軟に仕事ができるように局がしっかりとサポートして組織としての力をしっかりと発揮していくことが重要だと思っております。

三点目は、良い仕事をするためには、心と体の健康と安全をしっかり確保していく事が重要だと思っております。

現在、働き方改革を進めワークライフバランスを実現することが求められています。その中で、女性の登用ということも進めていかなければいけません、そのためには、風通しの良い職場環境を作り、職員の皆さんがストレスが低くなるような環境でしっかりと仕事をしたいと思っています。

そして、安全の確保については、職員はもとより国有林内で仕事をして頂く事業者の皆さんの安全についてもしっかりと確保していくことが重要です。国有林内では、森林整

備、素材生産、治山・林道などの土木工事など多くの事業体の皆さんに仕事をして頂いています。国有林内で仕事をしたいという皆さんは私たちの仲間です。公務災害セ口はもとより国有林内における重大災害の撲滅、災害の未然防止について、しっかりと取り組むことが重要だと思っております。

現在、新型コロナウイルスの感染防止のために全国に非常事態宣言が出され、業務運営に大きな制約がある中で職員の皆さんには大変なご苦労をお掛けしているところでありますが、こうした局面にあっても、地元市町村、関係業界はじめ地域の皆さんと力を合わせて国有林として、できることをしっかりと取り組んでいくことが重要です。職員の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

原田前局長退任挨拶

4月1日付けで北海道森林管理局の局長に異動することになりました。

顧みますと平成29年7月10



退任の挨拶を行う原田前局長

着任する直前に発生しました九州北部豪雨に伴う朝倉の対策含めその他の業務、今、コロナウィルスで大変ですが、木材輸出を含め九州の森林林業が状況を呈している一方で、災害対策もしなければならぬということ、皆様方の仕事は本当にある意味やりがい満ちていたのではないかと思います。働きやすくてやりがいがあれば、誇りの持てる職場になるので

ありがとうございました。それぞれ署長さん方あるいは管理職の皆様方・そして職員の皆様方の努力の賜だと思います。このように九州局の皆さんが非常に前向きに明るく仕事をして頂いています。ことに感謝しております。

これから、新型コロナウイルスの関係では、皆さんの健康管理と、いざ何かあった時の業務の遂行という非常に難しい課題を抱えながら業務運営に努めていかなければならない事と思えます。

今後、大変厳しい状況・対応を迎えられる方々、あるいは、森林林業の関係者にも景気の低迷等いろんな事態が出てくるかもしれません。

日付けで九州局長を拝命致しましてやって参りました。最初の挨拶をさせていただいたときの嬉しくて、高揚したような気分をととてもよく覚えて

あります。私、こちらに参りました抱負としてお話ししたのは、働きやすい職場作り、やりがいのある職場作り、そして、働きやすくてやりがいのある事によって誇りを持てる職場作りに勤めたいとお話しさせていただきました。

私自身としましては、鹿児島・九州の出身でして、とても楽しく仕事をさせていただきました。各署等にも度々お邪魔させていただきましたが、各署等・職場に行きましても若い方を含め非常に明るく風通しの良い職場であるなど思

私、こちらに参りました抱負としてお話ししたのは、働きやすい職場作り、やりがいのある職場作り、そして、働きやすくてやりがいのある事によって誇りを持てる職場作りに勤めたいとお話しさせていただきました。

最後に、素晴らしい九州局の生活を送らせていただきましたこと、改めて職員の皆様全体に感謝申し上げます。ともに、皆さんが健康で健やかに、良い職場を作っていくことを祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。

最後に、素晴らしい九州局の生活を送らせていただきましたこと、改めて職員の皆様全体に感謝申し上げます。ともに、皆さんが健康で健やかに、良い職場を作っていくことを祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。

公益重視の管理経営と林業の成長産業化の実現に向けて

令和2年度重点取組事項

4月20日九州森林管理局では、「公益重視の管理経営と林業の成長産業化の実現に向けて」と題し、令和2年度の重点取組事項を公表しました。

例年、九州森林管理局の重点目標につきましては、記者発表を実施しておりますが、今年度は、緊急事態宣言の対象区域が全国に拡大されたことを踏まえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、予定していた記者発表を中止し、関係機関等へのプレスリリース及び九州森林管理局のホームページへの掲載を持って公表としました。

なお、令和2年度重点取組事項は次の7項目です。

① 確実な再造林の実施に向けた低コスト造林技術の確立

○各地で伐採面積が増加する中、確実な再造林に向け、国



低コストモデル実証団地（次世代造林プロジェクト）

○森林の多面的機能の持続的発揮に向けて、計画的な森林整備を推進。森林整備を通じて生産した木材については、国産材の需要拡大や加工流通の合理化に取り組む製材工場等に安定的に供給。



地元市町村、猟友会との協定締結



市町村職員向けセミナー

② 木材の安定供給と担い手の育成

を進めるため、生産性向上の取組等により、意欲と能力のある林業経営者等の担い手を育成。

③ 深刻化するシカ被害への対応

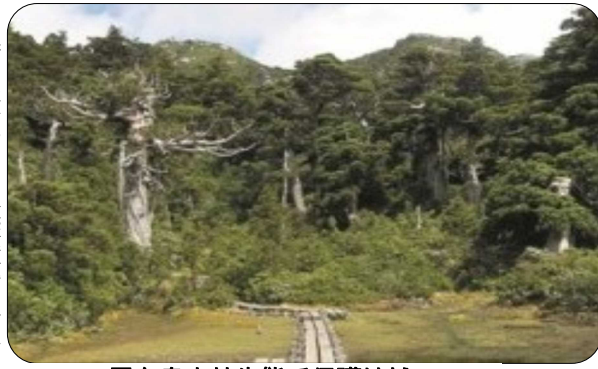
○シカの生息数増加や生息域の拡大による森林被害は深刻であり、林業経営の面だけでなく、森林の公益的機能の発

揮にも影響。○森林被害が甚大な地域を中心に、関係機関と連携しつつ、委託等による効率的なシカ捕獲や地元市町村・猟友会等とのシカ被害対策協定に基づく取組等を推進。

④ 森林経営管理制度を踏まえた民有林行政の支援

○平成31年4月から民有林において森林経営管理制度が導入され、同年9月には森林環境譲与税の譲与が開始。○森林経営管理制度が円滑に機能するよう、森林総合監理士等による市町村の森林・林業行政等に対する技術的な支援を推進。

**⑤優れた自然環境の保全と森林
景観を活かした観光資源の創出**



屋久島森林生態系保護地域

○特に優れた自然環境を有する国有林を保護林に設定し、森林生態系の保全、希少な野生生物の保護を図ることとし、モニタリング調査等を通じた順応的管理を実施。

○優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森に設定し、保健休養の場として提供。このうち、特に景観等の優れた箇所については、「日本美しの森 お薦め国有林」として重点的な環境整備等を実施。

**⑥地域の安全・安心
確保に向けた取組**

○近年多発している地震・集中豪雨等による山地災害の復旧・復興に向け、全力で取り組んでいるところ。併せて、荒廃山地の整備や保安林の水土保全機能の強化等により、地域の安全・安心を確保するための事前防災・減災対策を推進。

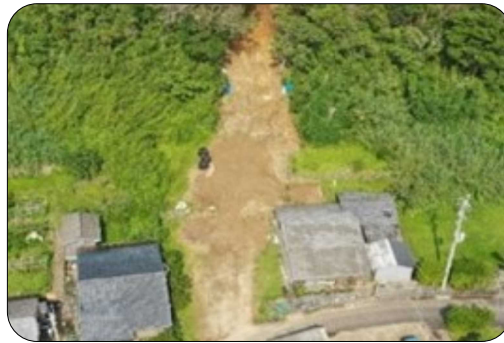
○また、福岡県からの要請により実施している民有林直轄治山事業を引き続き実施。



溪流荒廃地の復旧状況：朝倉市

⑦ICT等の積極的な活用

○現在、森林・林業・木材産業の分野においても、ICT（情報通信技術）等の活用に向けた技術開発が進められているところ。



ドローンを活用し崩壊地を撮影

○林業の特性を踏まえた新技術の活用による「林業イノベーション」に向けて、シカ捕獲へのICTの活用や、森林調査や災害復旧業務等へのドローンの活用など、各事業にICT等を積極的に活用

※令和2年度重点取組事項は、九州森林管理局HPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になれます。
（担当II企画調整課）

治山・林道工事コンクール表彰者決まる
◆優良工事施工業者・現場代理人・監督員を表彰◆

このコンクールは、平成30年度に施工した治山・林道工事の中から、事業効果の発現が顕著なものについて、取り組みテーマ（コスト縮減・技術提案・環境配慮）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の工事の模範に当たると判断された、治山工事部門4社、林道工事部門4社に対して、九州森林管理局局長賞を授与することとなりました。

また、局長賞受賞に併せて林野庁へ推薦した2社の工事が、林野庁長官賞（治山工事1社・林道工事1社）を受賞されたことから、屋久杉の額縁を贈呈し、当該工事の現場代理人及び発注者等の監督職員に対しても局長賞を授与することとなりました。

表彰状の授与式は例年4月に、九州森林管理局局長室で実施しているところですが、新型コロナウイルス感染症を防止するため中止し、受賞者の最寄りの森林管理署長から授与されました。その際局長メッセージが添付され、「近年、毎年のように台風や大雨等に

よる山地災害が頻発する中、国民の生命・財産を守り安全・安心を提供する治山事業と森林の適正な管理や森林資源の循環利用を支えるインフラ整備としての林道事業の意義は、益々大きなものになっていると考える。

今後とも国民の期待や要請に適切に応えるため、効果的な治山・林道工事の実施に努めて参りますので、なお一層の技術力の向上、より良い工事の実施をお願いしたい」旨のメッセージが添えられ、表彰状授与が終了しました。

受賞者は次のとおり

- ◆林野庁長官賞
 - 阿蘇地区治山工事（小烏帽子）
 - 『テーマ・環境配慮』
 - 《九州森林管理局発注》
 - 吉原建設株式会社
 - 代表取締役 吉原 政秀
 - 支那志中尾24林道新設工事
 - 『テーマ・技術提案』
 - 《鹿児島森林管理署発注》
 - 株式会社大坪建設
 - 代表取締役 石原 堅

◆九州森林管理局局長賞

【工事の部】

○島原温泉岳治山工事（5溪）

『アーマ・技術提案』

《長崎森林管理署発注》

大政建設株式会社

代表取締役 森山 澄江

○町田河内山治山工事（関連災）

『アーマ・環境配慮』

《大分西部森林管理署発注》

小倉建設株式会社

代表取締役 永吉 陽一

○桜島地区治山工事（深谷川本流第4支溪）

『アーマ・技術提案』

《鹿児島森林管理署発注》

小牧建設株式会社

代表取締役 小牧 隆

○阿蘇地区治山工事（左近）

『アーマ・環境配慮』

《九州森林管理局発注》

清川産業株式会社

代表取締役 江藤 龍治

○尾鈴245林道新設工事

『アーマ・環境配慮』

《西都児湯森林管理署発注》

株式会社桑原建設

代表取締役 桑原 常雄

○鹿野林道新設工事

『アーマ・環境配慮』

《宮崎森林管理署発注》

春山建設工業株式会社

代表取締役 春山 義正

○尾谷2151林道新設工事

『アーマ・環境配慮』

《宮崎森林管理署発注》

株式会社長友組

代表取締役 長友 正憲

○富士159林道新設工事

『アーマ・環境配慮』

《宮崎南部森林管理署発注》

有限会社高橋建設

代表取締役 高橋 浩文

○阿蘇地区治山工事（小烏帽子）

現場代理人 上久保 隆

（吉原建設株式会社）

監督職員 佐藤 修治

（宮崎署・元治山課）

○支那志中尾24林道新設工事

現場代理人 桑水流 孝太

（株式会社大坪建設）

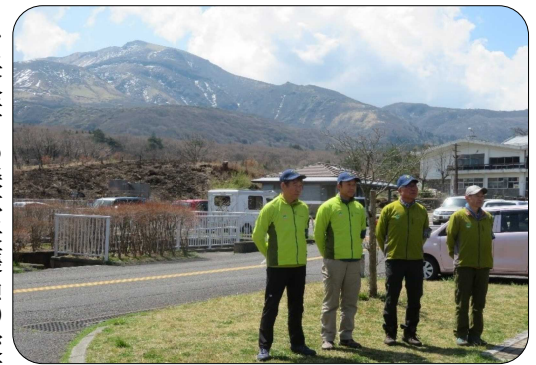
監督職員 山崎 武

（森林整備課・元鹿児島署）

（担当）森林整備課

グリーンサポート スタッフが活動開始

【大分西部森林管理署】令和2年4月16日、大分県九重町で、「くじゅう連山」の国有林で巡視活動や来訪者へのマナーの呼びかけなど環境保全のための普及啓発活動を行う「グリーンサポートスタッフ」が今年度の活動を開始しました。グリーンサポートスタッフは、自然環境に優れた国有林



グリーンサポートスタッフの皆さん

にも恵まれ、「3密」を避けて、長者原ピジターセンターのテラスをお借りして、活動開始に当たって巡視ルートの確認、安全確保の打合せや装備の点検などを行いました。当署のグリーンサポートスタッフは、「くじゅう連山」の国有林のうち、管内の九重町側の登山ルートで、訪問者が増加する春季と秋季を中心に、11月までの主に休日に活動を行うこととしています。

菊池溪谷山開きとピジターセンター完成記念式典が開催

【熊本森林管理署】4月4日、菊池溪谷山開きと菊池溪谷ピジターセンター完成記念式典が、菊池溪谷を美しくする保護管理協議会の主催により、当局の峰内浩昭保全課長と当署の酒井昭則総括事務管理官など関係機関から約30名が参加して開催されました。

まず神職による神事及び関係機関による玉串奉奠が行われ、菊池溪谷の安全が祈願された後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「熊本地震で傷ついた溪谷に新しいスポットが完成した。多くの人が来てほしい」と挨拶、来賓として当署の酒井昭則総括事務管理官が「菊池溪

谷内が安全にご利用頂けるように引き続き関係機関と連携しながら、各種取組に対して協力していきたい」と挨拶しました。続いて1日にオープンしたばかりのピジターセンター前で関係機関の代表者がテープカットを行いました。オープンしたピジターセンターは、鉄骨造り2階建てで内装などに多くの熊本県産材が使用されているとともに、全面ガラス張りの渓流側からは青く澄んだ清流も展望でき、室内でも森林の中にいるような作りとなっており、菊池溪谷の新たな拠点施設となることが期待されます。



代表者によるテープカットの様子

新任挨拶 どうぞよろしく

令和2年4月1日付の異動により、新しいポストに就かれた、地域木材情報分析官・5名の課長・6名の森林管理署長をご紹介します。

地域木材情報分析官



井上 智晴
い の う え と も は る

年齢 56歳
出身地 熊本県
前職 大隅森林管理署長
抱負 新型コロナウイルス感染症による影響が拡大し、木材産業全体への先行きが不透明となっている中、地域木材情報分析官を拝命しました。素材生産における生産性向上への取組や九州各地の木材需給に関する情報の精査や分析等について取り組んで参りますのでよろしくお願いたします。

経理課長



岩下 隆徳
い わ し た た か の り

年齢 56歳
出身地 熊本県
前職 総務企画部企画調整課監査官
抱負 経理事務は決して目立つ分野の業務ではありませんが、反面、全職員・全業務が関わるベースとなる業務であり、欠くことのできない重要な役割を担っています。初めての経理課への配属となり身の引き締まる思いですが、良き課内のスタッフと一丸となって職員の皆さまが行う各種業務をしっかりサポートして参ります。職員の皆さまのご協力をお願いいたします。

治山課長



富永 雄二
と み な が ゆ う じ

年齢 55歳
出身地 宮崎県
前職 計画保全部治山技術専門官
抱負 近年、多発している地震・集中豪雨等により各地で山腹崩壊や溪流荒廃など甚大な被害が発生しています。地域住民の安全・安心を確保するため、引き続き、管轄署と連携して計画的な復旧を目指します。また、平成29年7月九州北部豪雨の被災地において民有林直轄治山事業を実施しているところですが、今後も地域の声に耳を傾け、県・市町村など関係機関と連携し計画的な復旧に取り組んで参りたいと思います。よろしくお願いたします。

森林整備課長

年齢 59歳
出身地 熊本県
前職 資源活用課長



木林 静夫
き ば や し し ず お

抱負 伐って↓植えて↓育てて↓道づくり↓のサイクルの中で、「伐って」は卒業し、それ以降の「植えて↓・・・」に残り一年間、全力で取り組みむとともに、諸課題の解消に向けて各課・署等と連携を密にし、情報を共有しながらから森林整備に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

資源活用課長



佐藤 敏郎
さ と う と し ろ う

年齢 56歳
出身地 宮崎県
前職 森林整備部企画官
抱負 13年ぶりの資源活用課勤務です。先人が育て、守ってきた森林が利用期を迎える

技術普及課長



白濱 正明
し ら は ま ま さ あ き

年齢 54歳
出身地 熊本県
前職 西都児湯署次長
抱負 局での勤務は2年ぶり2回目となります。生産・

中、資源の有効活用、生産性の向上、木材の安定供給の取り組み、新たな樹木採取権制度の導入など林業の成長産業化の取り組みが求められています。

昨年度に増加した労働災害の未然防止を徹底し、「伐って、使って、植えて、育て、伐って」と循環利用が可能な貴重な森林資源を伐ること、売ることに對しているような知恵を出して取り組んでまいりたいと思っております。

新型コロナウイルスによる影響で大変な時期ですが、局署等の皆様と連携し対応に取り組んでまいりますのでよろしくお願いたします。

販売・造林等の業務サイドに
長年携わっておりましたので、
確実な再造林に向けた低コス
ト造林技術を確立することは、
喫緊の課題と捉えておりまし
た。

国有林のスケールメリット
(組織、フィールド、技術力、
資源)を活用し、これまで取
り組んできた技術開発等につ
いて関係者の皆様と連携を図
り、「現場力」を生む現地検
討会等を実施することに、森
林・林業技術者等の育成と情
報共有を民有林へ普及・定着
させることが重要と考えてい
ます。

また、国民参加の森林づく
りや森林環境教育については、
森林・林業への地域の皆様の
理解が得られるよう取り組ん
でいきますのでよろしくお願
いします。

福岡森林管理署長



佐藤 肇
さとう はじめ

年 齢 55歳

出身地 大阪府
前 職 関東森林管理局森林
整備部長

抱 負 福岡署においては九
州北部豪雨災害からの早期復
旧並びに地域と連携した海岸
林再生及びシカ被害対策を重
点取組としています。

そのため、今後とも地域の
発展に貢献できるように、市町
村への支援も念頭に置いたド
ローン操作・活用技術の向上
松くい虫被害の防除や駆除等
による海岸林再生の加速化、
協定に基づいたシカ捕獲の推
進、素材生産の生産性向上等
に、これまでの経験も活かし
つつ職員の皆様と一体となっ
て取り組んで参りたいと考え
ております。よろしくお願
いいたします。

熊本南部森林管理署長



赤星 良治
あかほし りょうじ

年 齢 57歳
出身地 熊本県
前 職 治山課長

抱 負 管内は先輩方が築か
れてきた充実した森林資源を
有し、林業・木材産業が盛ん
な地域です。

現在、実施している五木地
域森林共同施業団地の取組、
次世代造林プロジェクトの低
コスト造林実証や人材・事業
体の育成など、林業・木材産
業の成長産業化に向けて、民
有林と連携しながら歩みを止
めることなく、引き続き、取
り組んで参ります。

また、国有林が地域の振興
や安全・安心の確保に貢献で
きるよう、職員一体となって
業務を遂行して参りますので、
よろしくお願ひします。

大分森林管理署長



猪島 明久
いじま あきひさ

年 齢 55歳
出身地 熊本県
前 職 林野庁木材産業課課
長補佐
抱 負 九州局には4年ぶり、
大分には縁があり旧佐伯署、

大分西部署のほか、豊後大野
市への出向を含め、今回で4
回目となります。

管内はくじゅう連山をはじ
めユネスコエコパークに登録
された祖母山、傾山など豊か
な自然を有しており、地域の
関心も高いことから各事業の
実施に当たっては、地元自治
体等との連携を密に進めてい
くことが重要と考えています。
国有林が地域に評価される
よう職員の皆様と一体となっ
て取り組んでまいりますので、
よろしくお願ひします。

宮崎北部森林管理署長



黒木 興太郎
くろき こうたろう

年 齢 55歳
出身地 熊本県
前 職 屋久島森林生態系保
全センター所長
抱 負 これまでどおり職員
の皆様とともに、安全と健康
を第一に明るく風通しの良い
職場づくりに取り組んで参り
ます。

また、管内の現状等を早期
に確認し、地元自治体や地域
の関係機関等の要望や意見
等を伺いながら、民有林との
連携を深めつつ国有林が地域
に貢献できるように、署として
協力できることについては積
極的に取り組みを進めて参り
ますので、よろしくお願ひし
ます。

鹿児島森林管理署長



永山 正一
ながやま しょういち

年 齢 57歳
出身地 大阪府
前 職 国立研究開発法人森
林研究・整備機構森
林総合研究所総務部
長
抱 負 初めての九州局勤務
となります。職員の皆様とと
もに、健康、安全に細心の注
意を払いつつ、明るく風通し
のよい職場づくりに努めてい
きたいと思っております。また、
世界自然遺産への登録が待た
れる奄美大島、徳之島をはじ

め、管内には霧島、吹上浜、開聞岳など全国的に有名な景勝地が多く存在し、各々の場所での国有林野の管理経営の姿勢が国民から問われることとなります。

数多くのステークホルダーの意見を聴き、それらの意見を踏まえた上で最善と思える施策、施業を職員の皆様とともに取り組みたいと思いますので、どうぞよろしくお願います。

大隅森林管理署長



山本 文雄

やまもと ふみお

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 経理課長
抱負 32年前、管内に所在した製品生産現場（旧内之浦営林署）以来の大隅半島勤務です。加えて久々の署勤務、健康で災害のない明るく風通しのよい職場作りに努めて参ります。その上で民有林と連携した森林整備の推進や山地

災害の防止をはじめ、地元からの要望にも職員の皆さんとともに取り組み、引き続き地域から評価いただける組織としていきたい考えです。

新型コロナウイルス感染症対策の影響下、着任早々から身動きが不自由な状況ではありますが、できることにはしっかり取り組んでいく考えですので、どうぞよろしくお願います。

担当：総務課

治山・林道工事コンクール九州森林管理局賞を伝達

【大分西部森林管理署】4月17日、令和元年度治山・林道工事コンクールで九州森林管理局長賞を受賞した小倉建設（株）代表取締役永吉陽一氏に、大分西部森林管理署会議室で表彰状を伝達しました。

当コンクールは平成30年度に施工し完成した治山・林道工事を対象とし「コスト削減」「技術提案」「環境配慮」の各テーマに沿った優良工事の中から選定されるもので、大分西部森林管理署が発注した町田河内山治山工事（関連災）を施工された同社が、「環境配慮」において良好な工事内

容が他の模範に当たると評価されました。

本来であれば表彰状は、受賞者を九州森林管理局にお招きして、局長からお渡しするところでしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は、地元森林管理署からお渡しすることとなり、当日は、永吉代表取締役と工事の監理技術者を務められた江藤慎也氏が来署されました。

町田河内山治山工事は、平成28年6月に梅雨前線の活発化による豪雨で山腹が崩壊した大分県九重町町田地区の国有林を復旧するもので、災害発生当時は、崩壊した土石が防護施設を損壊させ、直下の



令和元年度 治山・林道工事コンクール表彰式

表彰を受けられた永吉代表取締役と関係職員等

県道飯田高原中村線（県道40号線）に大量に堆積しました。県道が通行止めとなったほか、崩壊地内には大量の土石が不安定な状態で堆積し、さらなる降雨等による崩壊地の拡大と道路への被害のおそれがあるため早急な復旧が必要となりました。

施行地付近は、飯田高原、九酔溪、九重・夢・大吊橋等が点在する大分県有数の観光地であり、県道は、大分自動車道九重インターチェンジからこれら観光スポットにアクセスするとともに、飯田地区の住民の生活道路としても大変重要な路線となっています。

県道に堆積した土石が除去され一時的に通行が可能となった後も、施工現場は傾斜が急で崩落による落石が発生するため、工事の内容によっては通行止めが不可避な状況でしたが、地域においては、観光への影響を懸念して通行止めを極力回避すべきとの意見と、通行止めを行ってでも早期に復旧すべきとの相反する意見がありました。

このため、観光業界や地元住民の方々に対し、工事の概要説明や要望の聴き取り等を行って通行止めの日時を慎重

に検討し、行楽シーズンには工事を休止するとともに、工事期間中には月1回の「現場だより」を発行・配布して情報提供に努めました。

また、迂回路や近隣の飲食店などの営業を伝える案内看板、外国人観光客に配慮した多国語の案内看板の設置といった対策を講じながら、工事の保全対象である県道が観光道路として県外も含め多くの車が通行することから、道路脇2か所に工事説明看板を設置するなど、多くの方々に治山事業へのご理解とご協力を頂き、無事工事完成となりました。

工事においては、施工箇所上流の法面崩壊状況や傾斜などを考慮し、作業者の安全確保の観点から、オペレータが安全な場所からリモコン操作で施工できるロッククライミングマシーンによる無人化施工を行ったほか、台風の通過後等の調査にはドローンを活用し、最小限の人員で安全な現況確認ができました。

受賞された小倉建設（株）は、受注者としての確かな工事を行われたことはもとより、地域への情報提供や、多くの箇所にあたる通行止め等に関

「綾プロ勉強会」を開催

～地域と連携した取組を目指して～

当勉強会は、平成17年度から関係5者で進めている「綾プロ」の取り組みについて、その概要等についての理解を促す為に、転入者を対象に毎年実施しているものです。

する看板等について、工事の休止・再開のたびに生じる撤去と再設置に根気よく取り組まれるなど、地域のご協力を得ながら工事を円滑に実施するために多大なご努力を傾注されたところであり、改めて感謝を申し上げます。

なお、「現場だより」は、大分西部森林管理署ホームページでご覧いただけます（アドレス：<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/otaseibu/tisan.html>）。

【宮崎森林管理署】4月23日宮崎森林管理署管内において、新たに転入してきた職員を対象とした「綾プロ勉強会」を開催しました。

例年であれば、局計画課から講師を招き実施していますが、今回は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、署の担当者である下村森林技術指導官が転入者7人を対象に実施しました。

「綾プロ」は、正式名称「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」（通称・「綾照葉樹林プロジェクト」（略称・「綾プロ」））といい、当署管内の綾北川・綾南川流域に残されている照葉樹林を保護・復元する目的で、隣接する原有林、町有林、私有林を含め

た約1千haをエリアとして、平成17年度に、綾町・てるはの森の会・日本自然保護協会・宮崎県・九州森林管理局の5者で協定を交わし取り組みを進めています。

また、この取り組みは、平成24年度に登録された「綾ユネスコエコパーク」が評価された理由の一つとされています。



現地勉強会の様子

「綾プロ」の取り組みは、各協定者との連携はもとより、地域住民の方々との繋がりが今後さらに重要となってくるものと

当日は、綾ユネスコエコパークセンター会議室でこれまでの取り組み、及び今後の取り組み等について説明を受けたあと、エコパークとの相互関係を学びました。その後、間伐会ランティア作業を実施した中尾国有林に場所を移し、綾森林事務所の原口尚也首席森林官より、照葉樹復元の状況、シカ食害の影響等について説明を受け、実際の現場を観ながら意見交換を行いました。

緑の募金贈呈式

今年も九州森林管理局局長室で緑の募金贈呈式が行われました。4月14日に（一社）九州林業土木協会山本求道会長から、4月20日に九州国有林採石協会中田博基会長から、小島局長に緑の募金が手渡されました。

九州森林管理局では、今年も緑の募金全国一斉強調月間である「みどりの月間」（4月15日～5月14日）に募金活動を展開しています。集まりました募金は、国土



九州林業土木協会長より贈呈

【屋久島森林管理署】当署では森林生態系保全センターと連携しながらヤクシカを職員実行で捕獲しています。毎年の捕獲頭数は減少傾向にあるものの、令和元年度は18頭を捕獲するとともに、委託事業や協定捕獲等を合計すると173頭を捕獲しています。

有害鳥獣捕獲従事者研修を開催

緑化推進機構と熊本市地域みどり推進協議会をおし、日本全国の森林整備や緑化推進事業に活用されます。

なお、「みどりの月間」中は、監物台樹木園にも募金箱を設置しています。

（担当 技術普及課）



九州国有林採石協会長より贈呈

このような中、4月15日に当署会議室において、4月異動の転入者8名に対して山本克郎総括事務管理官を講師として、有害鳥獣捕獲従事者研修を開催しました。午前中の座学研修に続いて午後からは屋久島森林管理署敷地内において、実技研修会を開催しました。

る長距離無線式捕獲パトロー
ルシステム(通称・ほかパト)
を子機及びパソコンで説明し、
研修会を無事終了しました。
また、長距離無線式捕獲パ
トロールシステムの使用方法
の未受講者については、新型
コロナウイルスの影響を考慮
して、数回に分け少人数での
研修会を開く予定としていま

す。
当署及び保全センターでは、
ヤクシカによる屋久島の貴重
な森林生態系や農林業への被
害を抑えるために、屋久島町、
地元猟友会などの関係機関と
連携しながら、本年度も職員
実行と併せて委託事業や協定
に基づくヤクシカ捕獲に取り
組む考えです。



法令等の学習の様子

実技研修会では、吉村浩

一主任森林整備官と山口聖
技官が講師となって屋久島
におけるヤクシカ被害対策
の取組状況、本年度の捕獲
計画等の説明やくくり罠の
実技指導を行いました。

くくり罠の実技では初め
て設置する者を中心に、設
置のコツや安全な取扱い方
法、電気止め刺し器の使用
方法などの指導を受けまし
た。

次に、本年度から導入す



わな設置の実習を行う研修生

都会の中の憩いの森

監物台樹木園の
多様な植物



暖地の海岸近くに生える常緑
広葉樹とされていますが、九州
内では普通に見られます。枝が
たまにとげ状になり、葉は革質
で縁が波打ち、葉裏は銀白色の
星状毛を密生し、点々と褐色の
鱗片があります。この状態は花
の顎(がく)にも見ることがで
きます。

花は前年の秋に咲き、果実
(偽果)で越冬、翌年の初夏
(5月から6月)苗代を作る頃
果実が熟します。このことから
名前が付けられています。
グミはとげのことをグイとい
い、グイミがグミに転訛したと
云われます。転訛する前の言語
の「グイ」を調べてみると「大
和(日本)に大陸文化

150 ナワシログミ(グミ科)

ミは春に花が咲いて初夏から秋
にかけて実が熟します。

実は赤く熟し、酸味がありま
すが美味しく、昔は子供のおや
つでしたが、今では食べられる
のかどうかも分からない子供が
多いようです。グミの種類は多
く熊本地方でも7〜8種は数え
られます。樹木園の中央東側に
高さ1mで傘状に仕立ててあり
ます。

森林インストラクター

安楽 行雄

が始まる前に大和で話
されていた言語」と解
説されています。

同じ環境に育つツル
グミ、海岸近くに多い
マルバグミも同じ頃に
花が咲き翌年に実を熟
します。反対にナツグ
ミ・アキグミ・トウグ



例年GW期間中、西表島は豊
かな自然に感動した観光客の声
で溢れかえります▼しかし、今
年は世界中に猛威を振るう「新
型コロナ」の影響で、奥歯に
「我慢」をじっと噛んだような
静寂な島へと一変しました▼
「見えない敵」と称される「コ
ロナウイルス」▼日本中と言わ
ず世界中の誰もが、生命の危機
を身近に感じつつ、一方で仕事
や暮らしへの不安を日々つづら
せ、底知れぬ様々な閉塞感が生
まれるのも当然と感じてしま
います▼今夏開催予定だった東京
オリンピックさえも吹き飛ばし
てしまった「見えない敵」との
戦いに、「緊急事態宣言」が出
される中、「ワンチーム」の職
場態勢が求められています▼誰
もが経験したことのない未曾有
の事態を終息に向けるため、
「チーム・九州国有林」の職員
一人ひとりが、知恵を出し行動
する「やってみよう思考」が、
この状況を打開すると思えてな
りません▼「見えない敵」との
戦いが終わった時、西表島の深
い森の緑と鮮やかな海の青さは、
どれほど美しく見えることしょ
う。(ひ)